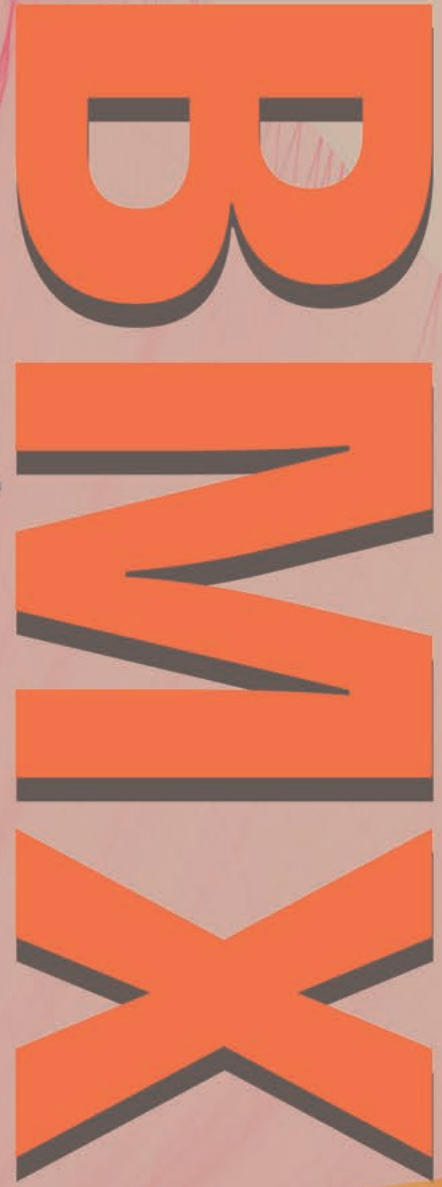


2021年、オリンピックイヤー。まもなく市内では、聖火リレーも開催されます。今号では、次期オリンピック出場を目指し、武雄で活躍する若きスポーツ選手取材しました。そして、年齢を感じさせないほどパワフルなさわやかクラブ武雄の皆さんにも、この機会にぜひスポーツ始めてみませんか？



武雄から世界へ羽ばたけ

【プロフィール】
中尾 海斗 (NAKAO KAITO)
2001年8月26日生まれ
佐賀県武雄市出身

- UCI BMX 世界選手権
- 第36回全日本BMX選手権大会



カッコいい！そんな第一印象。肩に日の丸がデザインされたウェアに身を包み、待ち合わせ場所に颯爽と現れた中尾海斗選手(19)は、武雄市在住の大学2年生。

BMXとは、バイシクルモトクロスと呼ばれる20インチの小さなホイールと、リアブレーキのみの専用自転車だ。競技は、スピードを競う「レース」と、ジャンプやトリックなどの技を競う「フリースタイル」に分かれ、中尾選手はレースの部門で活躍している。2019年7月に広島で開催された「第36回全日本BMX選手権大会」男子ジュニアエリート部で3位に入賞。今後も更なる活躍が期待されている中尾選手に話を伺った。

BMXとの出会い

競技を始めたのは8歳の頃。家族で久留米競輪場内の自転車パークに行ったときに、BMXコースでイベントが行われていて、プロの選手がレースで走っている姿がとてもカッコよく映りました。すぐにでもBMXをやりたいと伝えると、両親が関係者の方にどこで競技が出来るかを聞いてくれたんです。近くでは広島県で出来る事を知り、すぐにスクールに連れて行ってくれました。始めてまもなくビギナークラスのレースに出場し、2位に入賞することが出来ました。その後、福岡県にBMXコースを作っている方と出会い、毎週のように福岡まで練習に通いました。

ただ楽しくて自転車に乗っていた毎日

初めてBMXに乗った時は、大小の凹凸のコースを走るのが楽しかったことをよく覚えています。最初は思うように自転車をコントロール出来ませんでした。練習を重ねていくうちに、

ジャンプや、いろんな技が出来るようになった時はとても嬉しかったですね。とにかく楽しく、そして自由に乗ることが好きなので、トレーニングなどの練習は苦手でした(笑)。中学生まではただ楽しく乗って入賞することが出来ていましたが、高校生になると他選手のレベルも上がってきます。レース中、自分のコースラインを走っていても、他選手と接触したり転倒する事も。怪我也絶えず、半年に鎖骨骨折を2回したこともあります。そこで体力づくりや体幹を鍛える大切さに気づきました。BMXはハードなスポーツですが、大会の際は、車で全国を回っているのでも、たくさんの方と出会い、食べ物・観光も楽しめたり、日本全国・海外に友人がたくさん出来たりと、そういった面においても魅力的で大好きなスポーツです。

BMXをもっともっと広めたい

もう10年以上BMXレーサーをしています。辛くて辞めたいと思った事はありません。BMXの1番の魅力はなんといっても見た目のカッコ良さやスピード感。「自転車」は誰でも乗れる乗り物で、楽しく出来る点においても、とても良いスポーツだと思っています。幼少時から乗り始めた子は5歳から、最高齢では60歳の方も大会に出場しており幅広い年齢で楽しまれています。武雄競輪場にミニBMXコースができ、たくさんの子も達がコースで乗っている姿を見て嬉しく感じています。もっとBMXを知ってもらうために、自分がさらに活躍し、武雄市に本格的なBMXコースが出来るくらい普及させたいですね。そして将来オリンピックを目指す選手が、ここ武雄市から出てきてくれることを願っています。